

整理番号

H-V034-J-16

自在型ストレーナー (Y形)

取扱説明書



目次



(ページ)

1.弊社製品の保証内容について	1
2.取扱い使用上の注意	2
3.運搬・開梱・保管の注意	2
4 各部品の名称	3
5.最高許容圧力と温度の関係	4
6.取付方法	5
フランジ形	6
ねじ込み形	7
ソケット形	8
7.スクリーン清掃及び交換方法	9
8.点検項目	9
9.不具合の原因と処置方法	9
10.残材・廃材の処理方法	9



本取扱説明書は、弊社製品を安全にご使用いただくための重要な事柄について記載しています。
 なお、お読みになられた後は、お使いになる方がいつでも見ることができるところに必ず保管してください。

【表示マーク】

＜警告・注意表示＞

 警告	取扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負うことが想定される内容」です。
 注意	取扱いを誤った場合、「傷害を負うことが想定されるか、または、物的損害の発生が想定される内容」です。

＜禁止・強制表示＞

	製品の取扱いにおいて、「行ってはいけない内容」で禁止します。
	製品の取扱いにおいて、「必ず行っていただく内容」で強制します。

1. 弊社製品の保証内容について

- ・弊社製品のご使用に際しては、製品仕様や注意事項等の遵守をお願い致します。
- ・弊社は製品の品質・信頼性の向上に努めておりますが、その完全性を保証するものではありません。特に人の生命、身体または財産を侵害する恐れのある設備等へご使用される場合には、通常発生し得る不具合を十分に考慮した適切な安全設計等の対策を施してください。このようなご使用については、事前に仕様書等の書面による弊社の同意を得ていない場合は、弊社はその責を負いかねますのでご了承願います。
- ・弊社製品の選定、施工・据付、操作、メンテナンス等の注意事項は技術資料、取扱説明書等に記載してありますので、最寄りの販売店・弊社営業所へお問い合わせください。
- ・弊社製品の保証期間は納入後1年間とし、保証期間中に不具合が生じ、弊社に通知された場合は直ちに原因究明を行い、弊社製品に欠陥が発見された場合には弊社の責任でその製品を修理・交換致します。
- ・保証期間経過後の修理・交換は有償となります。
- ・ただし、次に該当する場合は保証の対象外と致します。
 - (1)ご使用条件が弊社の定義する保証範囲を超えている場合。
 - (2)施工・据付、取扱い、メンテナンス等において、弊社の定義する注意事項等※が守られていない場合。
 - (3)不具合の原因が弊社製品以外の場合。
 - (4)弊社以外による製品の改造・二次加工による場合。
 - (5)部品をその製品の本来の使い方以外にご使用された場合。
 - (6)天災・災害等の弊社製品以外の原因による場合。
- ※ なお、弊社製品の不具合により誘発される損害については、保証の対象外と致します。
- ・この保証は弊社製品を日本国内で使用される場合に限り適用されます。海外でご使用される場合には、別途、弊社にお問い合わせください。

2. 取扱い使用上の注意



- ・弊社樹脂製配管材料に陽圧の気体を使用される場合は、水圧と同値であっても、圧縮性流体特有の反発力により、危険な状態が想定されますので、管を保護資材で被覆するなど、周辺への安全対策を必ず施して使用してください。なお、ご不明な点はお手数ですが弊社窓口へお問い合わせください。
- ・配管施工完了後、管路の漏れ試験を行う場合、水圧で確認してください。止むを得ず気体にて試験を行う場合、最寄りの営業所へ事前にご相談ください。
- ・過酸化水素水(H₂O₂)、次亜塩素酸ソーダ(NaClO)などの酸化性液体は、酸化によりストレーナー内部に圧力異常上昇を起こす恐れがありますので、注意してください。(酸化により内圧が異常上昇した場合の気体は圧縮性流体であるため、万が一バルブ破損に至った場合、破片が飛散する爆発的なものとなりますので大変危険です)
- ・下表の許容流速以下で使用してください。(スクリーンが変形または破損する恐れがあります)

呼び径 (mm)	15	20	25	32	40	50	65	80	100
最大許容流速 (m/sec)	5	5	5	3	3	3	2	2	1.5



- ・バルブに乗ったり、重量物を載せたりしないでください。(破損する恐れがあります)
- ・火気や高温な物体に接近させないでください。(変形や破損、火災の恐れがあります)
- ・使用温度及び使用圧力は、許容範囲内で使用してください。(最高許容圧力は水撃圧を含んだ圧力です。許容範囲外で使用されますと、バルブが破損する恐れがあります)
- ・保守点検が出来るスペースは十分確保してください。
- ・適切な材質を選定して使用してください。(薬液の種類によって部品が侵され破損する恐れがあります。詳細については最寄りの営業所へ事前にご相談ください)
- ・常時、水や粉じんなどが飛び散る場所、及び直射日光のあたる場所は避けるか、または全体を覆うカバーなどを設けてください。(バルブが正常に作動しなくなります)
- ・定期的なメンテナンスを行ってください。(長期保管・休転時または使用中の温度変化や経時変化により漏れが発生する場合があります)
- ・自在型ストレーナー(Y形)は、コーナー部に内圧変動による繰り返し応力の影響を受けやすい構造となっていますので、脈動(エアハンマ、ウォーターハンマを含む)などの発生するラインでは、破損事故の恐れがあります。
- ・直射日光が当たらないように配管してください。(本体が変色、またはスクリーンが変形し、機能しない恐れがあります)

3. 運搬・開梱・保管の注意

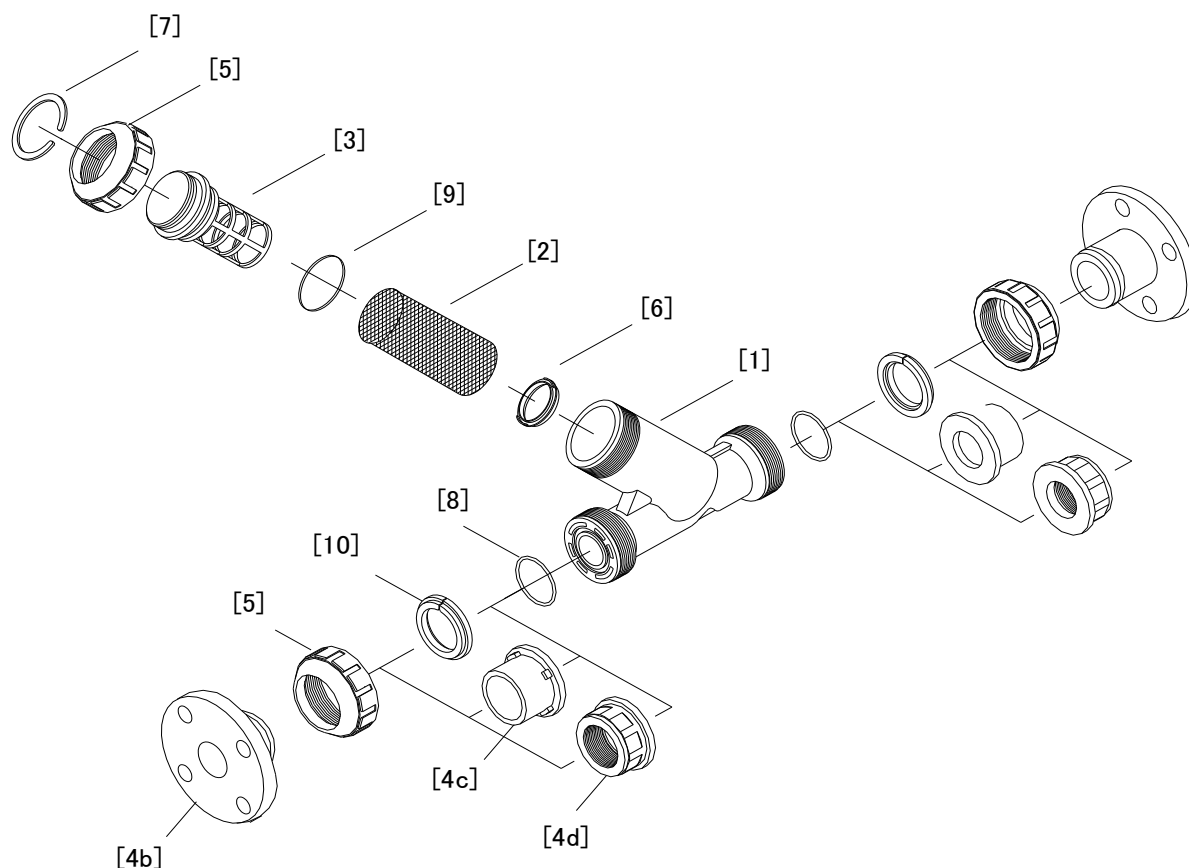


- ・バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊荷の下に立たないでください。



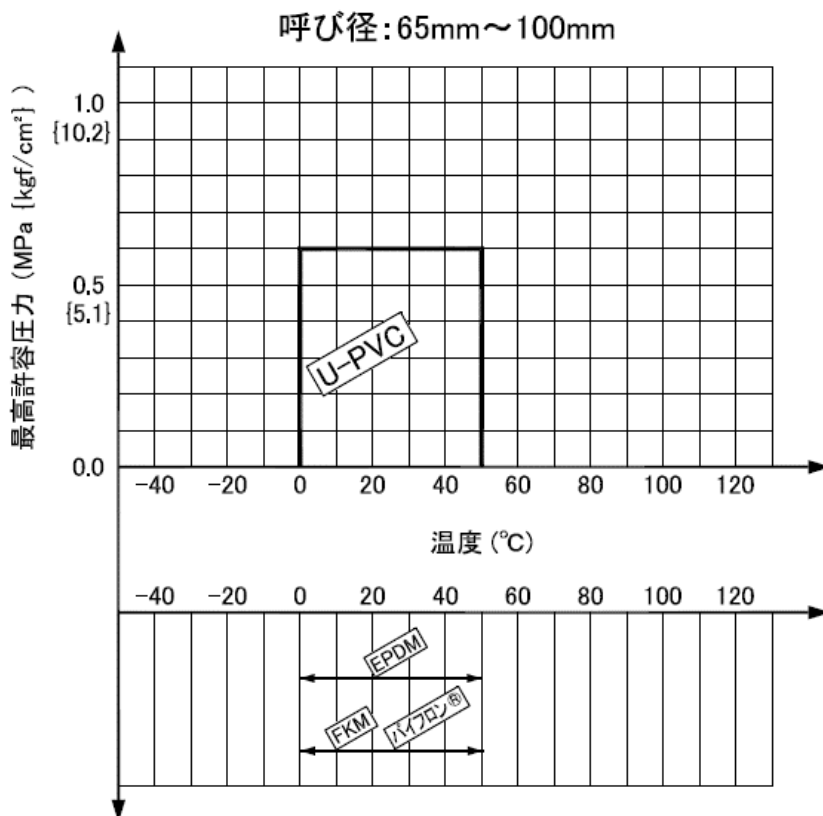
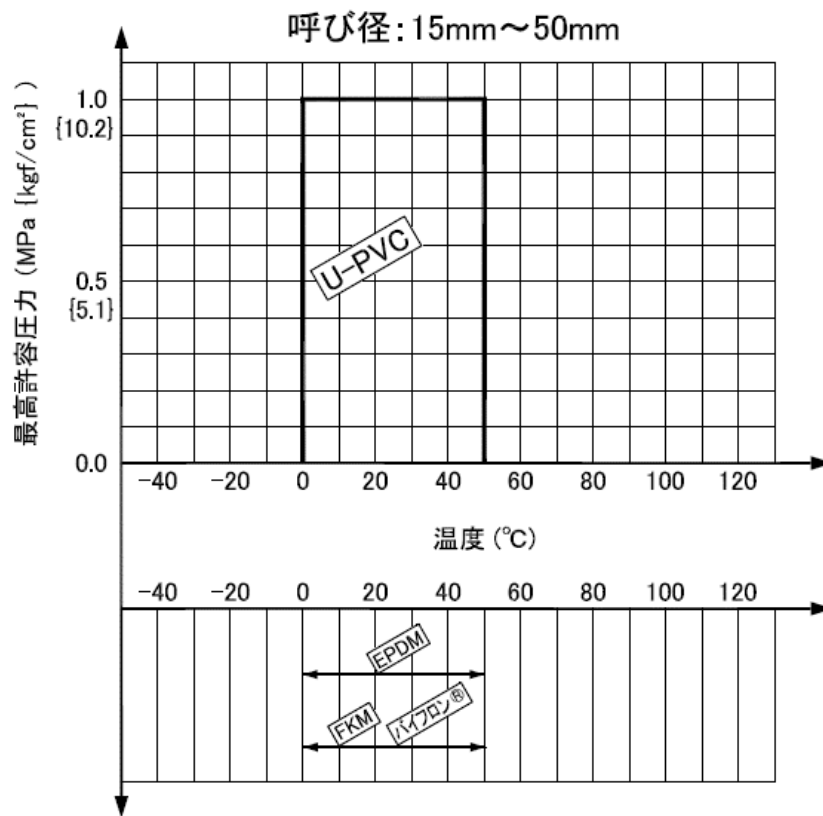
- ・投げ出しや落下、打撃などによる衝撃を与えないでください。(損傷や破損の恐れがあります)
- ・鋭利な物体(ナイフや手かぎなど)で引っかきや突き刺しなどをしないでください。
- ・ダンボール梱包は、荷崩れしないように無理な積み重ねをしないでください。
- ・コールトール、クレオソート(木材用防腐剤)、白あり駆除剤、殺虫剤、塗料などに接触させないでください。(膨潤により破損する恐れがあります)
- ・配管直前までダンボールに入れたまま直射日光を避け、屋内(室温)で保管してください。また、高温になる場所での保管も避けてください。(ダンボール梱包は水などに濡れると強度が低下します。保管や取扱いには十分注意してください)
- ・開梱後、製品に異常がないか、仕様と合致しているかを確認してください。

4. 各部品の名 称








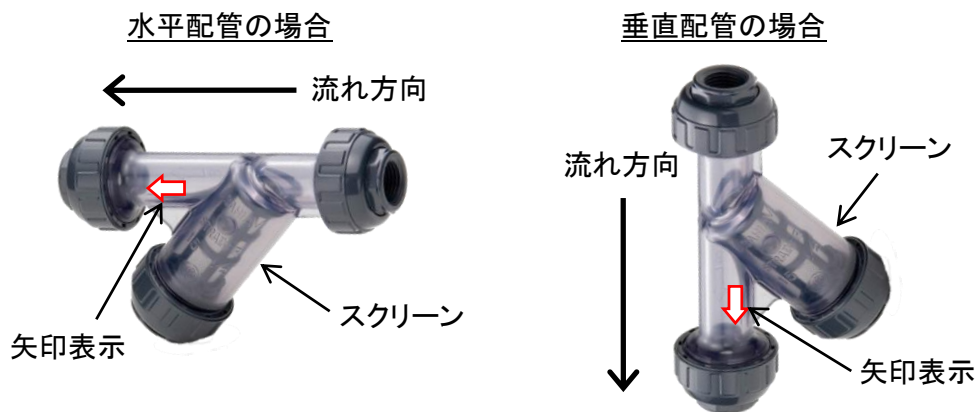
No.	名 称	No.	名 称
[1]	ボディ	[5]	キャップナット
[2]	スクリーン	[6]	スクリーン押さえ
[3]	スクリーンサポート	[7]	止め輪
[4b]	ボディキャップ(フランジ形)	[8]	Oリング(A)
[4c]	ボディキャップ(ソケット形)	[9]	Oリング(B)
[4d]	ボディキャップ(ねじ込み形)	[10]	ストップリング

5. 最高許容圧力と温度の関係



6. 取付方法

- 

警告
 - ・使用する機械工具及び電動工具は、始業前に必ず安全点検を行ってください。
 - ・配管施工する際は、作業内容に応じた適切な保護具を着用してください。
(ケガをする恐れがあります)
- 

注意
 - ・Uバンドなどで配管サポートを取られる際は、締め過ぎに注意してください。(破損します)
 - ・キャップナットを締め過ぎないでください。(破損する恐れがあります)
 - ・キャップナットを締める際に、パイプレンチを使用しないでください。(破損する恐れがあります)
- 
 - ・取付けの際は、配管及びバルブなどに引張り、圧縮、曲げ、衝撃などの無理な応力が加わらないようにしてください。
 - ・流れ方向に注意して、スクリーンが原則として下を向くように配置してください。
(流れ方向はボディに矢印で表示しています)



- ・直射日光が当たらないように配管してください。(本体が変色、またはスクリーンが変形し、機能しない恐れがあります)
- ・配管施工時、または分解組立の際は、ボディキャップを固定させて作業を行ってください。
- ・通水試験前は、必ずキャップナットが十分に締まっているか確認してください。
- ・軸芯ズレや面間寸法に注意してキャップナットを締め付けてください。
- ・金属配管へ樹脂バルブを接続する際は、樹脂バルブに配管応力が加わらないように注意してください。

フランジ形



- ・接続フランジは全面座のものを使用してください。
- ・相互フランジ規格に違いがないか、確認してください。
- ・必ずシール用ガスケット(AV パッキン)、ボルト、ナット、ワッシャーを使用し、所定の締め付けトルク値で締め付けてください。(AV パッキン以外の場合は締め付けトルク値が変わります)

準備するもの

- トルクレンチ
- AV パッキン
- スパナ
- ベルトレンチ
- ボルト・ナット・ワッシャー

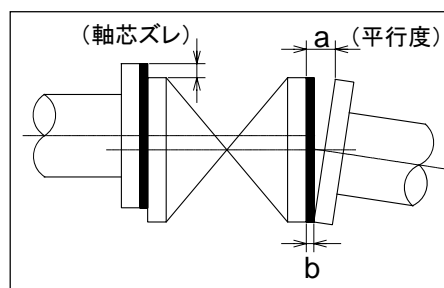
手順

- 1) フランジ間にパッキンをセットします。
- 2) 連結フランジ側からワッシャーとボルトを入れ、バルブ側からワッシャーとナットを入れて、手による仮締めを行います。



- ・フランジ面の平行度、及び軸芯ズレの寸法は、下記の数値以下にしてください。(配管に応力が加わり、破損する恐れがあります)

呼び径	軸芯ズレ	平行度 (a-b)
15~32mm	1.0mm	0.5mm
40~80mm	1.0mm	0.8mm
100mm	1.0mm	1.0mm



- 3) 徐々に規定トルク値まで対角線状にトルクレンチで締め付けます。(図1参照)
- 4) 時計回りに規定トルク値で2周以上締め付けます。(図1参照)

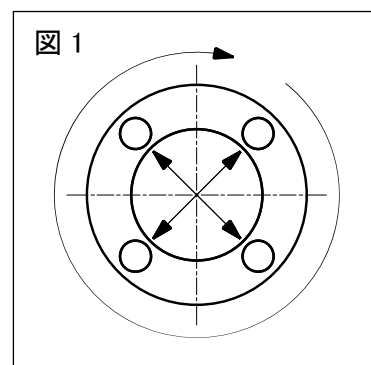


- ・規定トルク値以上で締め付けしないでください。(漏れや破損する恐れがあります)

フランジ締め付トルク値

単位: N・m {kgf・cm}

呼び径 (mm)	15	20	25~40	50, 65	80, 100
PTFE 被覆	17.5	17.5	20.0	22.5	30.0
PVDF 被覆	{179}	{179}	{204}	{230}	{306}
ラバー	8.0	20.0	20.0	22.5	30.0
	{82}	{204}	{204}	{230}	{306}



※キャップナットをゆるめたり、取り外した場合は、以下の方法で装着してください。

- 1) Oリング(A)[8]がボディに正しく装着されていることを確認します。
- 2) ボディ側にボディキャップ[4a]及びキャップナット[5]を Oリング(A)[8]が外れないように接触させます。
- 3) キャップナット[5]を手できつくなるまで締め付けます。
- 4) キャップナット[5]を傷付けないようにベルトレンチで 1/4~1/2 回転ねじ込みます。

ねじ込み形



注意

・接合部のねじは締め過ぎないでください。(破損する恐れがあります)



・この製品のキャップナットはゆるめやすいように軽く締め付けています。

必ずボディキャップを取り外してから施工してください。(外部漏れする恐れがあります)

・接合部のねじが樹脂製であることを確認してください。(金属ねじとの配管ではボディキャップが破損する恐れがあります)



・弊社樹脂配管材料のねじ接合部には、シールテープを使用してください。液状シール剤、及び液状ガスケットを使用した場合、ストレスクラック(環境応力割れ)を起こす可能性があります。

準備するもの

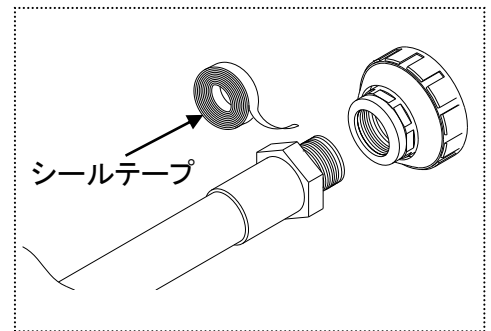
● シールテープ

● ベルトレンチ





● スパナ

手順

- 1) 継手のおねじにシールテープを先端約 3mm 残して巻き付けます。
- 2) ベルトレンチでキャップナット[5]を緩めます。
- 3) キャップナット[5]とボディキャップ[4c]を外します。
- 4) 継手のおねじとボディキャップ[4c]を手できつくなるまで締め付けます。
- 5) 傷つけないようにボディキャップ[4c]をスパナで1/2～1回転ねじ込みます。
- 6) Oリング(A)[8]がボディに正しく装着されていることを確認します。
- 7) ボディ側にボディキャップ[4c]及びキャップナット[5]をOリング(A)[8]が外れないように接触させます。
- 8) キャップナット[5]を手できつくなるまで締め付けます。
- 9) キャップナット[5]を傷つけないようにベルトレンチで1/4～1/2回転ねじ込みます。



ソケット形

-  **警告**
 - ・接着剤使用時は換気を十分にいき、周囲での火気の使用を禁止するとともに、直接臭気を吸わないでください。
- 
 - ・接着剤が皮膚に付着したときは、速やかに落としてください。また、気分が悪くなったり、異常を感じたときは、速やかに医師の診断を受け、適切な処置をしてください。
-  **注意**
 - ・低温下での施工は、溶剤蒸気が蒸発しにくく残存しやすくなるので、注意してください。(ソルベントクラックが発生し、破損する恐れがあります)
 - 配管後は、管の両端を開放するとともに、送風機(低圧仕様のもの)などで通風して、溶剤蒸気を除去してください。
- 
 - ・この製品のキャップナットはゆるめやすいように軽く締め付けています。必ずボディキャップを取り外してから施工してください。(外部漏れする恐れがあります)
 - ・接着剤は AV 接着剤を使用してください。(材質に応じたアサヒ AV 接着剤をご選定ください)
 - ・通水試験は、接着完了後 24 時間以上経過してから行ってください。


準備するもの

- アサヒ AV 接着剤
- ベルトレンチ

手順

- 1) ベルトレンチでキャップナット[5]を緩めます。
- 2) キャップナット[5]とボディキャップ[4b]を外します。
- 3) キャップナット[5]をパイプ側へ通します。
- 4) ボディキャップ[4b]の受口部をウエスできれいに拭き取ります。
- 5) ボディキャップ[4b]受口部及びパイプ差口に接着剤を均一に塗布します。




-  **注意**
 - ・接着剤は必要以上に塗らないでください。(ソルベントクラックが発生し、破損する恐れがあります)

接着剤使用量(目安)

呼び径(mm)	15	20	25	32	40	50	65	80	100
使用量(g)	1.0	1.3	2.0	2.4	3.5	4.8	6.9	9.0	13.0

- 6) 接着剤塗布後、すばやくパイプをボディキャップ[4b]へ差し込み、そのまま 60 秒以上保持します。
- 7) はみ出した接着剤を拭き取ります。
- 8) O-リング(A)[8]がボディに正しく装着されているのを確認します。
- 9) ボディ側にボディキャップ[4b]及びキャップナット[5]を O-リング(A)[8]が外れないように接触させます。
- 10) キャップナット[5]を手できつくなるまで締め付けます。
- 11) キャップナット[5]を傷付けないようにベルトレンチで 1/4~1/2 回転ねじ込みます。

-  **注意**
 - ・叩き込みによる挿入は絶対にしないでください。(管が破損する恐れがあります)

7. スクリーン清浄及び交換方法



注意

- ・キャップナットを締め過ぎないでください。(破損する恐れがあります)
- ・キャップナットを締める際は、パイプレンチを使用しないでください。(破損する恐れがあります)
- ・スクリーンの清掃は定期的に行ってください。(清掃時のスクリーンの取扱いには十分注意してください)

準備するもの

- ベルトレンチ
- 保護手袋
- 保護めがね

分解・清掃

- 1) キャップナット[5]をゆるめて、ボディ[1]よりスクリーン部([2]+[3]+[5]+[6]+[7]+[9])を取り外します。
- 2) スクリーン押さえ[6]を取り外し、スクリーン[2]を取り出します。
- 3) スクリーン[2]を水洗いして、ゴミや汚物などの異物を除去します。破損していた場合は新品に交換します。
- 4) 止め輪[7]をスクリーンサポート[3]より取り外し、キャップナット[5]を取り外します。
- 5) Oリング(B)[9]を取り外します。損傷していた場合は新品と交換します。

組立

- 1) Oリング(B)[9]をスクリーンサポート[3]に取り付けます。
- 2) キャップナット[5]をスクリーンサポート[3]に取り付け、止め輪[7]を取り付けて固定します。
- 3) スクリーン[2]をスクリーンサポート[3]に取り付け、スクリーン押さえ[6]を取り付けます。
- 4) 組み立てたスクリーン部([2]+[3]+[5]+[6]+[7]+[9])をボディに差し込み、キャップナット[5]で締め付けます。

8. 点検項目



注意

- ・定期的なメンテナンスを行ってください。(長期保管や休転時、または使用中の温度変化や経時変化により、漏れが発生する場合があります)

○ 下記の項目にて点検を行ってください。

(1)	外観にキズ、ワレ、変形はないか
(2)	外部への漏れはないか
(3)	キャップナットはゆるんでないか
(4)	スクリーンの破れ、汚れ、変形はないか

9. 不具合の原因と処置方法

状態	原因	処置方法
外部漏れがある	キャップナットのゆるみ	キャップナットの増締め
	Oリングのキズ付き、または磨耗	Oリングの交換

10. 残材・廃材の処理方法



警告

- ・廃棄される場合は、各自治体の指針にしたがい、廃棄専門業者に処理をお願いしてください。(燃やすと有毒ガスが発生します)

自在型ストレナー(Y形)
15～100mm

旭有機材株式会社



旭有機材ホームページ

<http://www.asahi-yukizai.co.jp/>